説明資料4

障壁画の再現検討

令和４年１２月２７日

石　川　県

６．障壁画の再現方針

（１）障壁画再現の趣旨

御殿の障壁画は、往時の文化や芸術への理解、また、御殿で行われた儀礼等において障壁画が果たした舞台装置としての役割を理解するうえで重要な意味を持つものである。

このため、復元整備の基本方針では、「御殿ならではの特徴の再現」として、「御殿の豪華絢爛さを特徴づけ、御殿ならではの装飾である障壁画、天井画、欄間等について、再現範囲を検討のうえ、史料から明らかになっている題材、作者、仕上げなどの情報を参考に、類例から意匠を類推するなど、史実を尊重した制作方法による再現を目指す」こととしている。

（２）調査・検討の体制

障壁画の再現に向けた検討は、学識者による絵画史的な検討だけでなく、制作技術の面においても往時の技法や、現代において再現しうる技術面の検討が必要となる。このため、学識者・学芸員・制作技術者を交えた以下のワーキンググループ体制のもと、資料調査や現地調査等を実施している。

氏名	所属等	専門分野、役職等
小嵜　善通	成安造形大学教授（学長） （金沢城二の丸御殿復元整備専門委員会委員）	専門：近世絵画史 役職：京都御所障壁画修理指導 二条城二之丸御殿障壁画模写事業指導 文化庁文化審議会文化財部会専門調査会委員
荒木　恵信	金沢美術工芸大学教授 （金沢城二の丸御殿復元整備技術アドバイザー）	専門：日本画、文化財保存、模写、絵画材料・修復 役職：石川県文化財保存修復工房運営委員 実績：平等院鳳凰堂板壁絵復元模写
中澤　菜見子	石川県立美術館学芸主任	近世絵画史
鈴木　彩可	〃　　学芸員	美術史
濱岡　伸也	石川県立歴史博物館学芸主幹	近世史
中村　真菜美	〃　　学芸員	近世絵画史
事務局　石川県土木部公園緑地課金沢城二の丸御殿復元整備推進室 絵画調査業務受託：（有）川面美術研究所（二条城、京都御所障壁画模写、熊本城障壁画復元）		

（３）二の丸御殿の障壁画に関する資料

これまでの調査により、複数の文献・絵図から御殿各所に描かれた障壁画（壁張付、襖、杉戸、天井画）の画題と絵師に関する文字情報が得られている。また、小書院格天井の天井画の実物が移築建築遺構と合わせて確認されている。他に、伺い下絵や写しなど、御殿に関連する可能性がある粉本資料が数点確認されている。

①文献

「二之御丸御殿内装等覚及び見本・絵形」　金沢市立玉川図書館蔵（加越能文庫）

再建に携わった御大工井上庄右衛門が記した御殿の仕様書といえる資料。一次資料として復元検討において信頼を置く史料。全ての障壁画について、位置、張付・襖と杉戸の別、画題、絵師、仕様が記載される。この中で各部屋の障壁画の画題や絵師、更に「彩色」、「惣金」、「墨絵」など仕様・仕上げの記載がある。

「御造営方日並記」　金沢市立玉川図書館蔵（加越能文庫）

造営奉行高畠厚定が記した御殿造営の業務日誌といえる資料。障壁画制作に携わった絵師の行動や、藩から支給した紙・金箔など材料、画題選定や制作作業における絵師とのやり取りなど、障壁画制作のプロセスが克明に記録される。また、岸駒・岸岱が藩主に謁見した際の記録など、制作作業だけでなく絵師の待遇や藩との関係などをうかがわせる記録も多く見られる。上記仕様書の記載とも内容がほぼ一致する。

藩士等による記録

江戸期から明治期にかけての藩士等による複数の記録の中に、御殿の障壁画の意匠について触れたものが部分的に確認される。

②絵図

「金沢城二の丸地図」　石川県立歴史博物館蔵

江戸後期の二の丸御殿の全体を描いた絵図。部屋を仕切る杉戸の画題と絵師が記載される。文献資料とも内容が概ね一致する。

③天井画の実物

「小書院格天井天井絵」　中村神社蔵

明治初期に御殿から移築され、現在は金沢市内の神社拝殿となっている小書院の格天井に張られていた天井画の実物が確認されている。

④粉本

江戸後期の御殿の障壁画制作には複数の絵師が参加しており、各絵師の家系、流派に伝わる粉本など下絵資料に、御殿に関連するものが見られる。

（4）二の丸御殿の障壁画に携わった絵師

文献及び絵図から、江戸後期の御殿の障壁画に携わった絵師と、担当した場所を特定することができる。絵師には大きく分けて次の三つの系統があることが明らかになっている。このうち、表向の主要部など重要な部分を担ったのは、岸駒・岸岱父子と狩野祐益・墨川父子である。

・京から招いた岸駒・岸岱父子を中心とした岸派絵師（地元の絵師も含む）

主な絵師）岸駒、岸岱、村上松堂、望月玉川、斉藤霞亭、村東旭、森閑材、森辰之助

・江戸から招いた狩野祐益・墨川を中心とした狩野派絵師（表絵師、神田松永町狩野の系統）

主な絵師）狩野祐益、狩野墨川

・佐々木泉景、梅田九栄など地元の狩野派絵師

主な絵師）佐々木泉景、梅田九栄、早川泉流

（5）障壁画の図様推定の方法

表向の障壁画の図様を図により示す資料は確認されていないため、（3）に記載する資料等から得られる情報に基づき図様を推定する推定復元を行うこととし、当該絵師の作品や、系列絵師の同画題作品、さらに江戸城など他城郭の障壁画の作例を調査し、絵師や流派の特徴について検討を深めることで精度を高める。

復元整備対象となる「表向」の主要部には、ほぼ全域にわたり障壁画等が見られるが、障壁画等の制作には長期間を要することから、推定復元の範囲、順序について建築計画との調整を図りながら取り組みを進める。

絵図・文献等資料の調査
（絵師、画題、場所、仕様、構図を表す情報）

↓

当該絵師、系列絵師、城郭の障壁画の作品調査
（構図や筆法の特徴の調査）

↓

復元計画の検討
（復元対象、順序）

↓

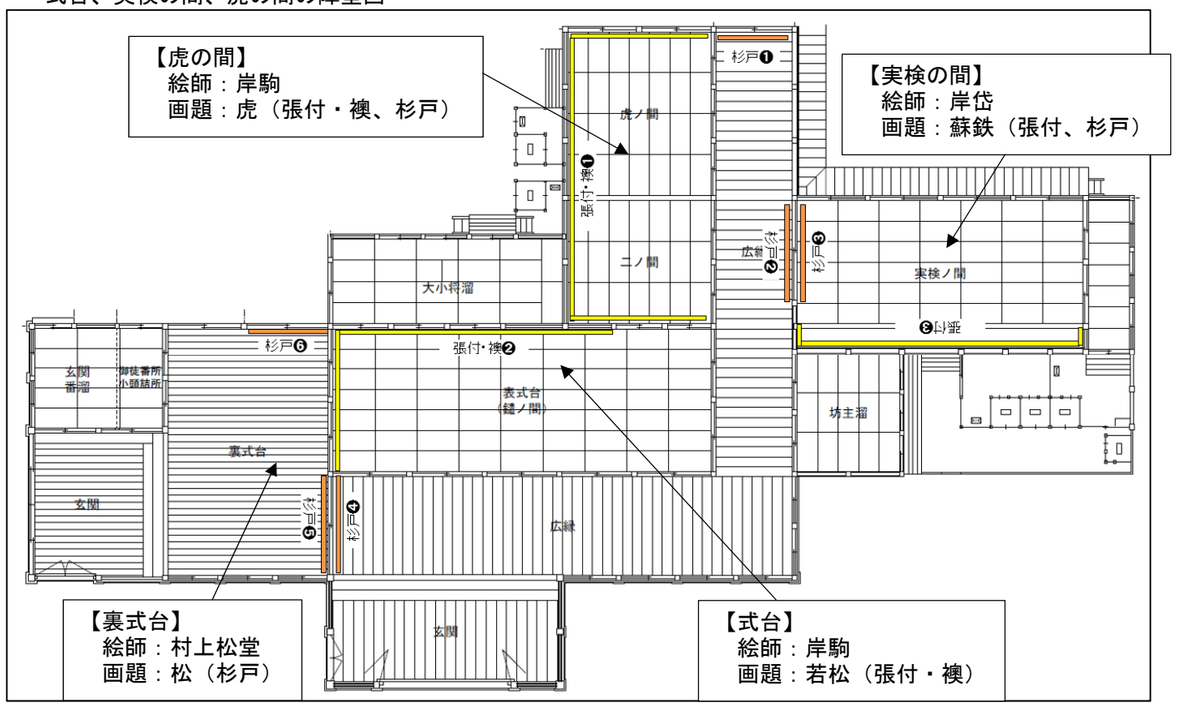
構図の検討、下絵の作成
（絵師や流派の特徴を踏まえた推定）

↓

本画の作成

なお、復元の第１段階にあたる式台、実検の間、虎の間はいずれも岸派の担当部分であるため、岸派関連資料を優先して調査検討を進める。

式台、実検の間、虎の間の障壁画



復元対象の検討（第１段階整備）

復元対象の検討にあたっては、関連する絵師の作品調査により得られる情報量や、復元後の利活用における位置づけなどを総合的に検討し、対象を決定する。

例えば、岸駒が虎を描いた虎の間については、文献により５匹の虎が描かれ、「水を飲む虎」「走る虎」「うずくまる虎」など虎の姿勢に関する情報も得られている。京都御所など同一流派の作品において、類似する構図の虎の姿が見られるため、これらの作品の特徴を参考に、岸派が描く虎の構図の推定を行うことが可能である。

一方で、実検の間については、岸派による蘇鉄の作例が確認されておらず、現時点では障壁画の再現の優先度は低いものと捉えている。

このような調査検討を順次進め、推定復元の対象を確定させていく予定である。

（６）二の丸御殿に関連する資料調査の状況

文献

■二之御丸御殿御造営内装等覚及び見本・絵形（金沢市立玉川図書館蔵・加越能文庫）
（第１段階整備範囲の障壁画に関する記載抜粋）
御式台
御画
若松　彩色　　但、御鑓之間　　画師京都　　岸越前助

裏式台
御杉戸、框草槙蝋色塗、板檀ヶ原杉柾目
御画
老松　彩色　　但、表御式台境　　画師京都　　村上松堂
若松ニ鶴　同　　但、大御廊下境　　同　　同人

虎の間
御張付惣金張
御画
虎　彩色　但、上之御間二之御間トモ　　画師京都　　岸越前助
御杉戸、框・帯トモ檜蝋色塗、板越中檀ヶ原伐出杉柾目
但、竹之御間境無帯
御画
虎　彩色　但竹之御間境実検之御間境トモ　　画師　　同人

実検之御間
御床之内三方御張付惣金
御画　蘇鉄　彩色　但御床之内　　画師京都　　岸筑前助
御杉戸、框・帯共檜蝋色塗、板檀ヶ原杉柾目
御画　蘇鉄　彩色　但御広縁境　　画師　　同人

■御造営方日並記（金沢市立玉川図書館蔵・加越能文庫）
（第１段階整備範囲の障壁画に関する記載抜粋**【読み下し】**）
一、実検之御間御張付、金張付に被仰付旨、御装束之御間御張付、金之野筋に被仰付旨、竹の御間、虎の御間、矢天井之御間金張付、竹の御間後御廊下金の野筋被仰付旨等被仰出、それぞれ関屋氏より井上庄右衛門へ被申渡事、
【実検の間の張付、金張付、装束の間の張付、金の野筋、竹の間、虎の間、矢天井の間は金張付、竹の間の後ろの廊下は金の野筋】

一、竹の御間初、御絵被仰付候ケ所、御唐紙、御杉戸の上等、惣而有壁御張付に相成候分、軽ク御絵可被仰付旨、尤絵柄により、有壁之所御絵被仰付候而は、不都合に相成候所も可有之候間、猶左様之儀、相糺可申聞旨、申渡置候事、
【竹の間をはじめ、絵を描く所、唐紙、杉戸の上など、全て有壁張付になるところ、軽く絵を描くように言われ、絵柄により、有壁の所に絵を描いては不都合になるところもあると思われるので、検討するよう言われる】

一、表御式台御絵、萩の御間御絵、牡丹之御間御絵、実検之御間御絵等、此間伺のとおり可被仰出候事、右委曲、左のとおり、
【表式台の絵、萩の間の絵、牡丹の間の絵、実検の間の絵、詳細は次のとおり】

一、表御式台御絵、若松、越前介江被仰付候事、
【表式台の絵、若松、岸駒】

一、実検之御間岩に蘇鉄、右筑前介江可被仰付事、
【実検の間、岩にソテツ、岸岱】

一、竹の御間・虎之御間境之御杉戸、虎之御間之方は虎、竹の御間之方は、岩に八ツ頭、虎は越前介、八ツ頭は墨川被仰付候事、
【竹の間、虎の間の境の杉戸、虎の間の方は虎、竹の間の方は、岩に八つ頭、虎は岸駒、八つ頭は墨川】

一、実検之御間入口御杉戸虎、内の方は、岩に蘇鉄被仰付候事、
【実検の間入口の杉戸、虎、内側は岩にソテツ】

一、鷲の御杉戸越前介、表御式台若松の絵同人、ならびに芙蓉之間下絵のとおり、筑前介、実間之御間、岩に蘇鉄、同人江被仰付旨、それぞれ申渡事、
【鷲の杉戸、岸駒、表式台の若松も岸駒、また芙蓉の間は下絵のとおり、岸岱、実検の間、岩にソテツ、岸岱】

一、表御式台・裏御式台椽境表御式台之方、最前は老松に付、今般も老松にて、下草根笹岩取合可申哉、裏御式台之方、最前御絵無御座候得共、このたび右同様之御絵可被仰付哉、
【表式台と裏式台の縁の境、表式台の方、焼失前は老松だったので、今般も老松、下草、根笹、岩を取り合わせ、裏式台の方は、焼失前は絵が無かったが、今回は表と同様の老松でどうか】

一、実間の御間入口
御椽側之方、御絵相済居候御床之内、岩に蘇鉄に御座候間、右之趣取合、岩に蘇鉄可被仰付哉、
【実検の間入口、縁側の方、既に絵を描き終わった床の内が、岩にソテツなので、それと合わせて、岩にソテツではどうか】

十月二十四日に伺被仰出筑前介、岩に蘇鉄相調候事に極居申候、
【１０月２４日に岸岱に仰せ付け、岩にソテツでととのえることに決まる】

一、裏御式台広椽より御廊下入口
裏御式台之方、若松に鶴、御廊下之方、卜印に可被成哉、
【裏式台の広縁より廊下の入口、裏式台の方、若松に鶴、廊下の方、卜印（下絵に番号を付けている？）ではどうか】

一、表御式台・裏御式台・広椽境
裏表共老松に下草根笹取合　　筑前介
【表式台、裏式台、広縁の境、裏表とも老松に下草根笹取り合わせ、岸岱】

一、実検の御間入口
先達而被仰出置候岩に蘇鉄　　筑前介
【実検の間入口、岩にソテツ、岸岱】

■二ノ丸御造営留帳（才記家文書、石川県立歴史博物館蔵）
（第１段階整備範囲の障壁画に関する記載抜粋）

二ノ御丸御間画被仰付候人々、
虎御間　惣金張　岸越前助　京都
十間御間同■鉄画　同筑前助　同せかれ
御小書院　金砂子山水画　狩野友益　江戸　御扶持人
竹御間　惣金張　同　卜川　同せかれ
牡丹御間　同諸鳥　佐々木泉景　大聖持
矢天井御間　春草　□□松堂　御当地町画師
御小書院御天井　唐藤　梅田九栄
竹御間御天井　唐草　村　東旭旭　町画師

【虎の間　　惣金張　　岸越前助（岸駒）　京都】
【実検の間　　同（惣金張）　蘇鉄画　岸筑前助（岸岱）　岸駒のせがれ】

一、御式台
御張附、惣金若松
御から紙、若松無地金等
御天井、金箔并あいろ形、さや形
【式台　張付、惣金若松、唐紙、若松無地金等、天井、金箔ならびにあい色、形は、紗綾形】

一、実倹御間
御床はゝ七間、たけ二間計、惣金、そで御入口、御杉戸
御天井、さをふち板天井
【実検の間　床、幅７間、丈２間ばかり、惣金、袖入口、杉戸、天井、竿縁板天井】

一、虎御間
御張附惣金、虎ノ絵、都合五疋
内三疋御張付、岩木・老松等あしらい二疋ハ御杉戸二間ニ御床なし
同御廊下通御式台より矢天井御間さかへ迄御天井さや形、御式台同断
【虎の間　張付惣金、虎の絵、合計５匹、うち３匹は張付、岩木・老松等あしらい２匹は杉戸２間に、床なし、虎の間廊下通り式台より矢天井の間の境まで天井紗綾形、式台と同じことわり】

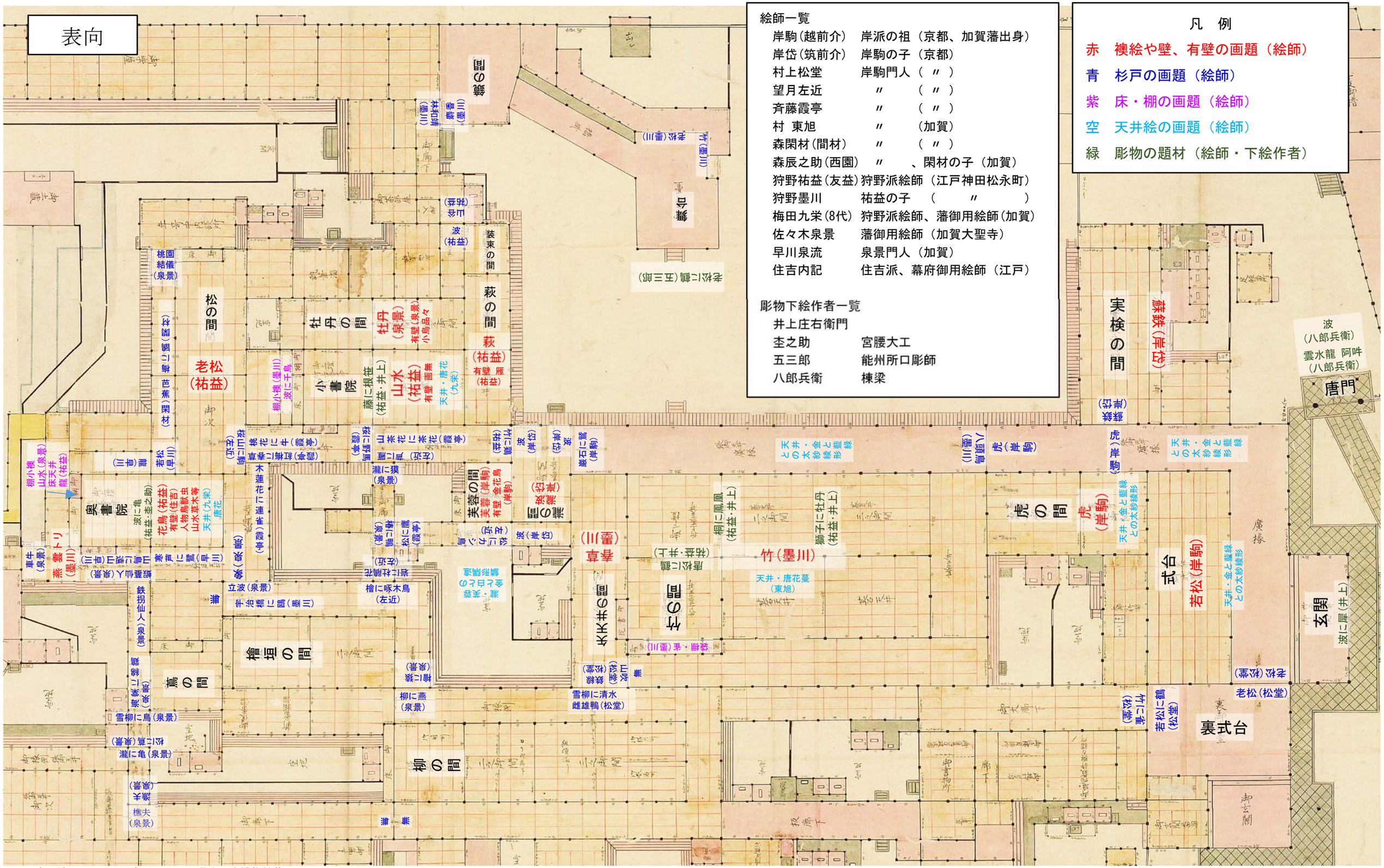
■南部祇知（ただとも）書取（明治２２年）
（第１段階整備範囲の障壁画に関する記載抜粋）
・表御式台・・・天井金と藍の大さやかたはりへは　階上の御間三間に九間天井金と藍大さやかた格天井や御はりつけ御唐紙惣金地小山ニ若松の画也御塗懸ありて御鑓の間ニといふ　虎の間のさかひ杉戸板白木縁帯・小戔とも黒ぬり
【表式台　張付、唐紙惣金地、小山に若松の画】

・虎の御間上の間三間半四間二の間三間三間半　天井御鑓の間と同し　御はり付等金地水石ニ虎はしるあり水のむあり踞るなとさまゝゝなり　△板の間をへたてゝ実験の間入口大杉戸の画外のかたハとら内ハ御はり付等金地蘇鉄の画杉戸も同　大床ニ寒夜中の霜等銘ある大長筒皆具共飾付あり　六間ニ八間なかゝゝと覚ゆ不慥　▲大広間広椽入口大杉戸画外ニて虎向ハ岩ニ菊いたゝき　欄間竹の節広縁十八間天井表御式台階上板の間ゟ一のへなり
【虎の間　張付等金地、水石に虎、走る、水飲む、うずくまるなど様々なり】
【実検の間入口の大杉戸の画、外側は虎、内側は張付等金地、ソテツの画、杉戸も同じ】
【広縁入口の大杉戸の画、外側は虎】

・右のかた御懸物所うらのかた御省略所也　新口へ出ル廊下等ニて内のかた御歩横目うらのかた御小人頭溜也
裏御式台の高へ出る所の杉戸絵女竹ニ鶏　表御式台裏御式台階上ハ竹の大杉戸の画両面とも松也
【裏式台の杉戸絵、女竹に鶏、表式台裏式台の杉戸の画、両面とも松】

■鶴村日記（文化７年５月）（白山市立博物館蔵）
（第１段階整備範囲の障壁画に関する記載抜粋）
・廿日　晴天朝風寒し袷ニよろし　朝之内九皐子旅宿宮久方江参る、四つ時過九皐生と京師之泉卓堂ヲ訪ふ
旅宿すか波屋、御城之御杉戸表は越前介虎ノ洞より走り出る図、裏者卓堂蘇鉄ヲ画ク
【城の杉戸、表は岸駒、虎の洞より走り出る図、裏は卓堂（岸岱の別号）ソテツを描く】

参考　二の丸御殿の障壁画等



48図　金沢城二の丸地図（部分）　石川県立歴史博物館蔵

画題・絵師等の表記は、「内装等覚」（玉川図書館蔵・年代区分1期）書き上げによる。

絵師一覧

岸駒（越前介）	岸派の祖（京都、加賀藩出身）
岸岱（筑前介）	岸駒の子（京都）
村上松堂	岸駒門人（　〃　）
望月左近	〃　（　〃　）
斉藤霞亭	〃　（　〃　）
村　東旭	〃　（加賀）
森閑材（間材）	〃　（　〃　）
森辰之助（西園）	〃　、閑材の子（加賀）
狩野祐益（友益）	狩野派絵師（江戸神田松永町）
狩野墨川	祐益の子　（　〃　）
梅田九栄（8代）	狩野派絵師、藩御用絵師（加賀）
佐々木泉景	藩御用絵師（加賀大聖寺）
早川泉流	泉景門人（加賀）
住吉内記	住吉派、幕府御用絵師（江戸）

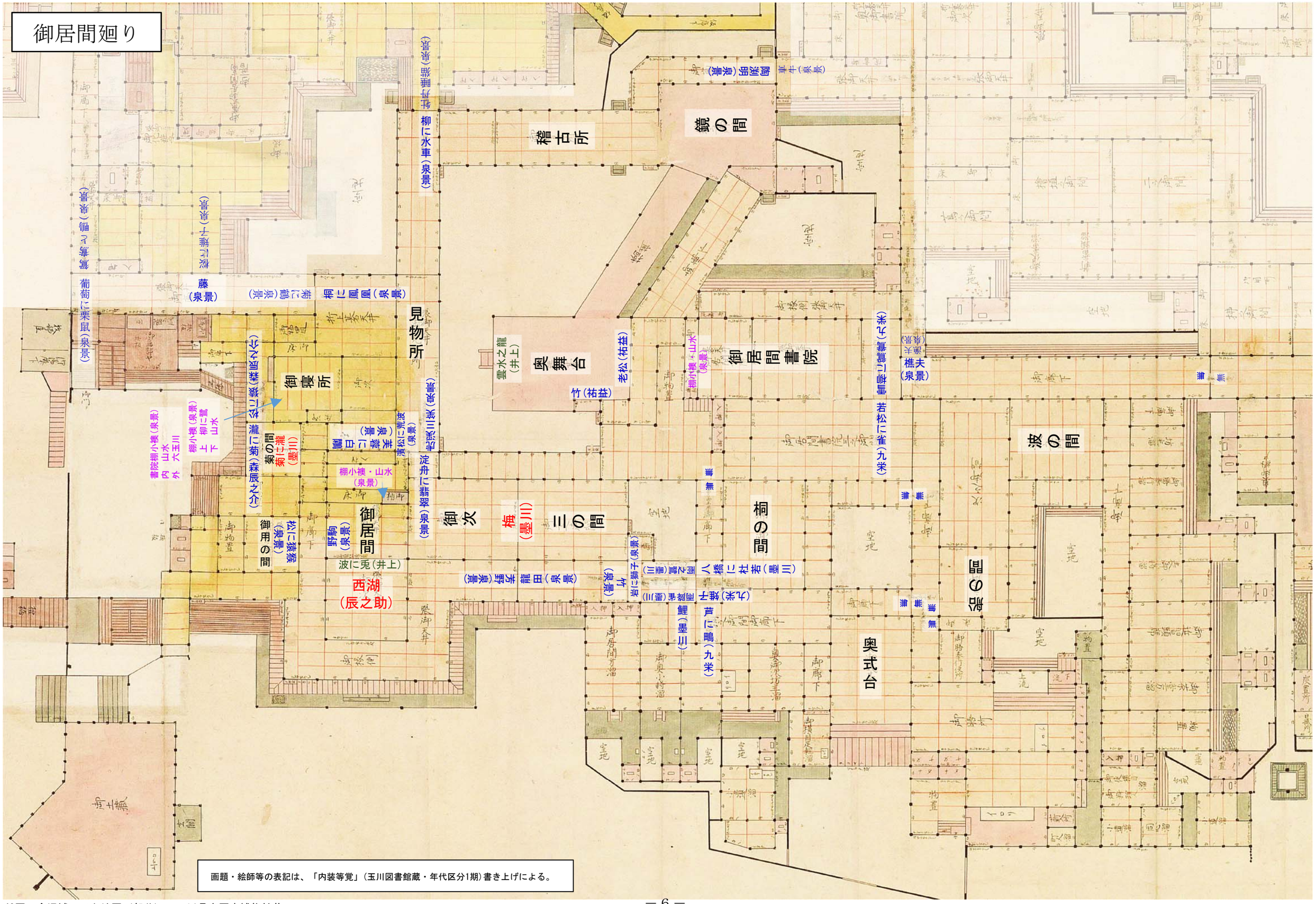
彫物下絵作者一覧

井上庄右衛門	
杢之助	宮腰大工
五三郎	能州所口彫師
八郎兵衛	棟梁

凡　例

赤　襖絵や壁、有壁の画題（絵師）
青　杉戸の画題（絵師）
紫　床・棚の画題（絵師）
空　天井絵の画題（絵師）
緑　彫物の題材（絵師・下絵作者）

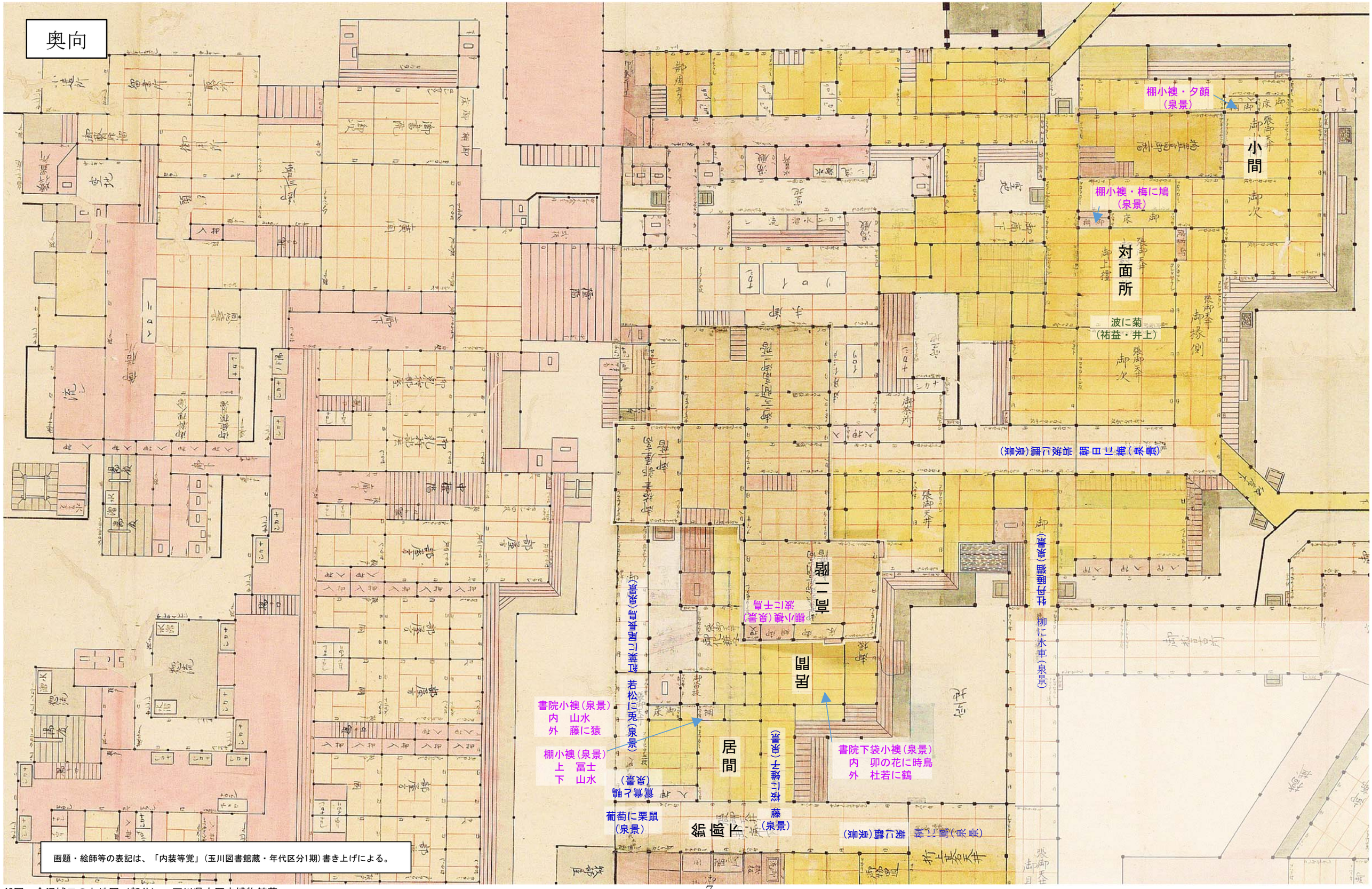
参考　二の丸御殿の障壁画等



画題・絵師等の表記は、「内装等覚」（玉川図書館蔵・年代区分1期）書き上げによる。

48図　金沢城二の丸地図（部分）　石川県立歴史博物館蔵

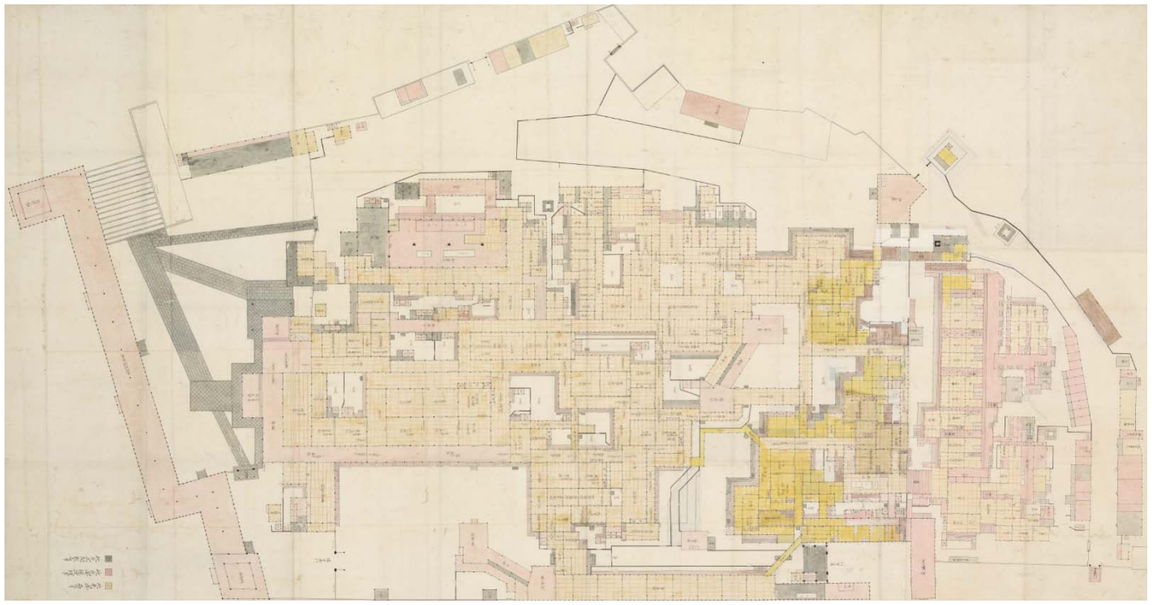
参考　二の丸御殿の障壁画等



48図　金沢城二の丸地図（部分）　石川県立歴史博物館蔵

絵図

金沢城二の丸地図（石川県立歴史博物館蔵）



杉戸の画題と絵師が記載される。

天井絵の実物

御造営方日並記の記載から、梅田九栄が描いた極彩色の唐花と推測される。（中村神社蔵）

（７）当該絵師、流派の作品調査の状況

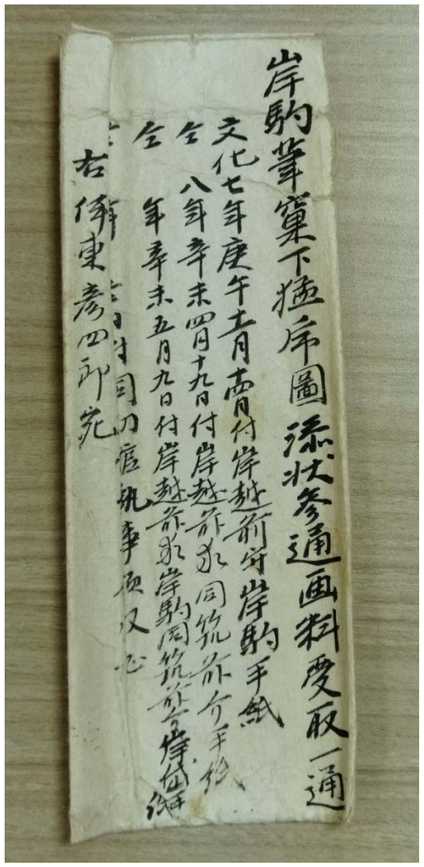
作品調査では、絵師の確かな作例で、金沢城の仕様との共通性が見られるものを対象としている。

■宮川祭曳山「颯々館」楽屋襖「松虎図」（長浜市宮司東町自治会蔵）

曳山の楽屋襖に、金壁に松や虎が描かれる岸駒の代表作と言える作品で、制作時の記録も残る。色褪せ等もほとんど見られず保存状態も良好である。二の丸御殿建設の５年前の享保４年（1804）に描かれたものであり、筆致や色彩など虎の間の参考類例となるものである。

■窠下猛虎図（富山県朝日ふるさと美術館蔵）

岸駒による虎の掛け軸。二の丸御殿の再建時に寄附を行った地元有力者が加賀藩を通じて岸駒に依頼したもので、二の丸御殿建設の２年後の文化８年（1811）に描かれ、岸駒の作品によく見られる構図である。



岸岱による添え書きが確認できる

■京都御所諸大夫の間襖

岸岱による虎の障壁画。水飲み虎、蹲る虎、走る虎、松の取り合わせは二の丸御殿と共通する。麻、淡彩など仕様は御殿と異なるが、部屋全体に描かれた岸派の虎の障壁画として虎の間の構図の参考類例となる。